

家計簿からみたファミリーライフ



家計調査

家計簿で
豊かな暮らしの
基礎づくり

調査員が
伺いましたら、
ご回答をお願い
いたします。

個人情報
は保護
されます。

パソコン、
タブレット、
スマートフォン
からもご回答いただけます。

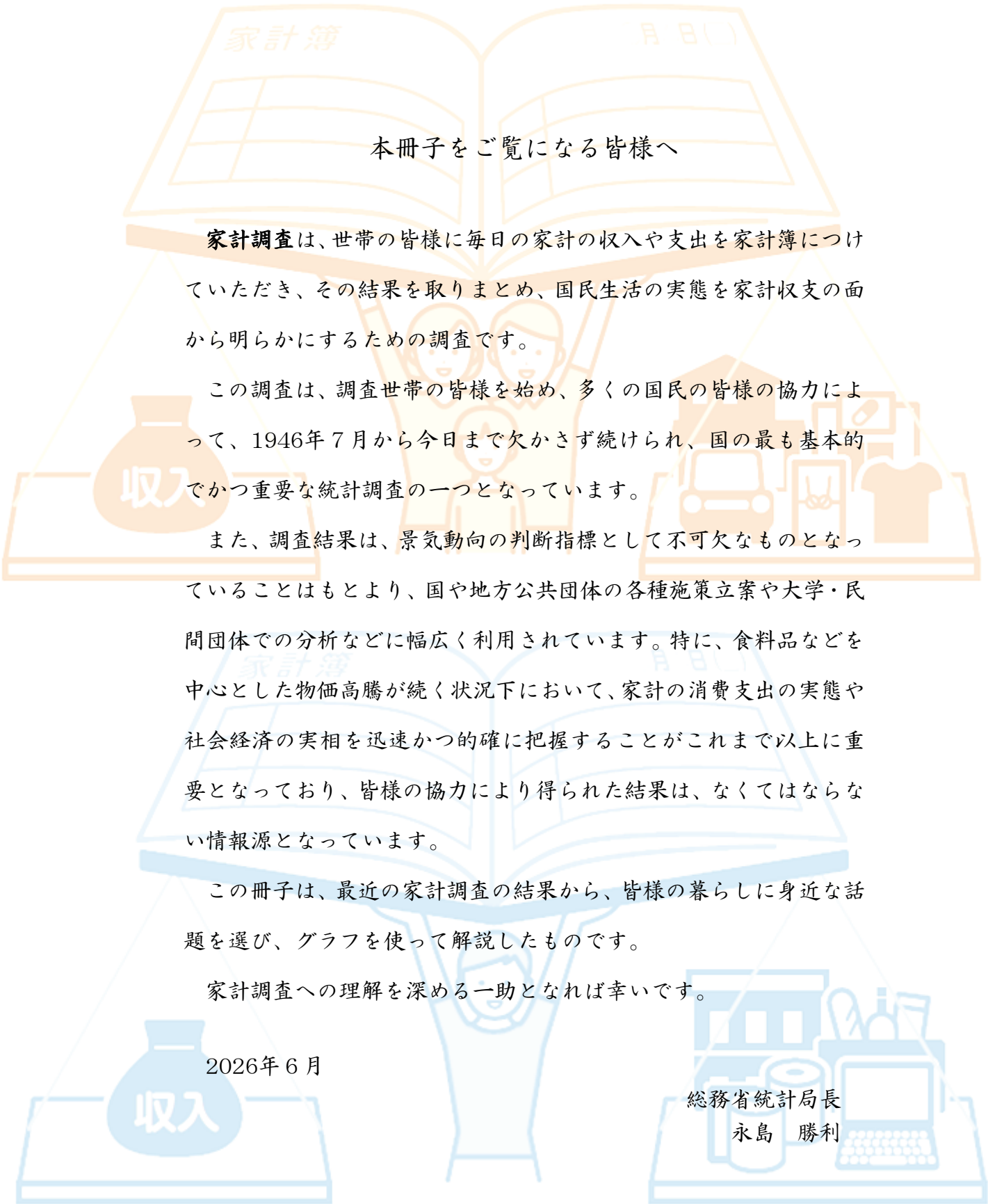
調査員は
調査員証を
携帯しています。

家計調査は、暮らしの実態を
家計収支の面から明らかにし、
我が国の経済・社会政策の
基礎資料となります。

家計調査 検索

<https://www.stat.go.jp/data/kakei/index.html>
印刷用の紙にリサイクルできます。

総務省統計局・都道府県



本冊子をご覧になる皆様へ

家計調査は、世帯の皆様により毎日の家計の収入や支出を家計簿につけていただき、その結果を取りまとめ、国民生活の実態を家計収支の面から明らかにするための調査です。

この調査は、調査世帯の皆様を始め、多くの国民の皆様の協力によって、1946年7月から今日まで欠かさず続けられ、国の最も基本的でかつ重要な統計調査の一つとなっています。

また、調査結果は、景気動向の判断指標として不可欠なものとなっていることはもとより、国や地方公共団体の各種施策立案や大学・民間団体での分析などに幅広く利用されています。特に、食料品などを中心とした物価高騰が続く状況下において、家計の消費支出の実態や社会経済の実相を迅速かつ的確に把握することがこれまで以上に重要となっており、皆様の協力により得られた結果は、なくてはならない情報源となっています。

この冊子は、最近の家計調査の結果から、皆様の暮らしに身近な話題を選び、グラフを使って解説したものです。

家計調査への理解を深める一助となれば幸いです。

2026年6月

総務省統計局長
永島 勝利

家計調査のしくみ	2
----------	---

第1章 家計調査結果の利用例

1 政府における利用	3
2 民間企業・学術研究者などにおける利用	4
3 地域の活性化の取組への利用	4
4 各種メディアでの利用	5

第2章 家計からわかる暮らしの特徴

1 食生活から垣間見える土地柄	6
2 最近の特徴的な支出	8
3 あの日には欠かせない この日には欲しい この品目	11
4 変わる季節性	12

第3章 年齢階級別に見た暮らしの特徴

◇二人以上の世帯	13
1 30歳未満で多い住居費	13
2 30歳代で多い子供用衣料など	13
3 40歳代及び50歳代で多い教育関係費	14
4 60歳代で多いスポーツ施設使用料	15
5 70歳以上で多いサプリメントなどの支出	15
◇単身世帯	16

第4章 家計資産

1 貯蓄額別の世帯分布	17
2 貯蓄の種類別の状況	18
3 負債の種類別の状況	19

この冊子のグラフなどの数値は特に断りのない限り、以下のとおり記載しております。

- ・ グラフなどの数値は、2025年の全国の結果です。
- ・ 「支出金額」、「貯蓄現在高」、「負債現在高」は、1世帯当たりの平均値です。

家計調査のしくみ

家計調査は、全国168市町村、約9,000世帯を対象に、国が都道府県を通じて行っている基幹統計調査（国が行う最も重要な統計調査の1つ）です。

調査方法

都道府県知事が任命した統計調査員が、調査世帯を訪問し、「家計簿」の記入をお願いします。

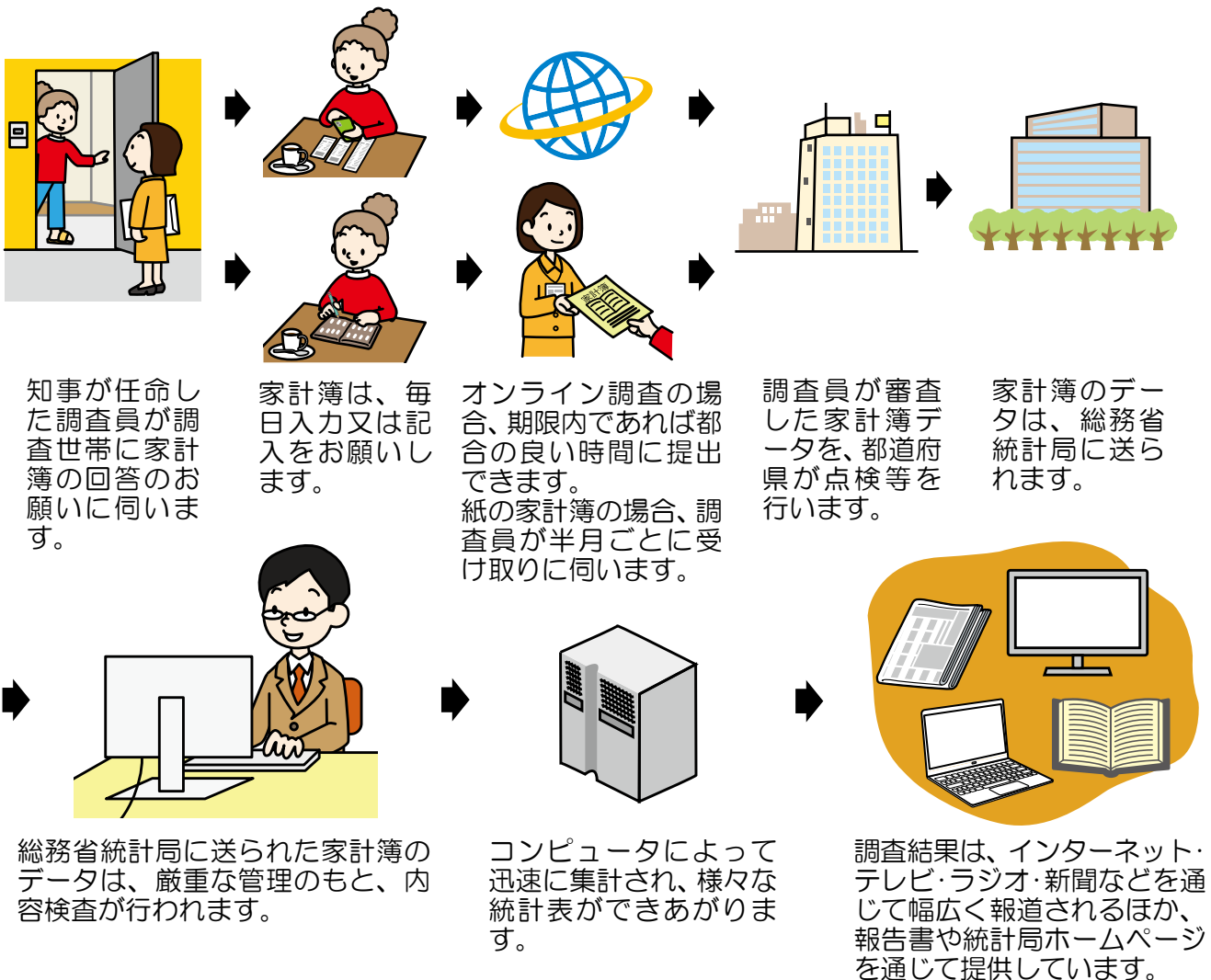
調査世帯は、統計的な方法で全国から無作為に抽出され、毎日の収入・支出について、「家計簿」に記入又はオンライン回答システムから入力します。

このほか、世帯と世帯員及び住居に関する事項については、調査員が聞き取りにより、その内容を「世帯票」に入力します。また、過去1年間の年間収入については「年間収入調査票」に、貯蓄及び借入金などに関する事項については「貯蓄等調査票」に各世帯が記入又はオンライン回答システムから入力します。

結果の集計及び公表

記入済みの家計簿などの調査票、オンライン回答システムに入力されたデータは、総務省統計局に送られ、データのチェックを経た後、集計されます。

調査の結果については、毎月、インターネットなどを通じて公表し、テレビやラジオ、新聞などによって広く報道されます。



家計調査の結果は、国民生活の動向を把握する最も基本的な統計として、各種行政施策の立案に幅広く利用されているほか、地方公共団体の広報活動や民間企業などにも利用されています。ここでは、その代表例を紹介します。

1 政府における利用

(1) 経済政策の基礎資料

➤ 国内総生産（GDP）

国内総生産（GDP）とは、我が国の経済力を表す指標であり、ある一定の期間内における国内の経済活動によって新しく生み出された財（商品）や、サービスの金額（付加価値）の合計です。

家計調査の結果は、国内総生産（GDP）の動きを知るため（四半期別GDP速報集計（QE）の算出）に用いられています。

➤ 月例経済報告

月例経済報告は、政府が毎月発表している景気の公式見解を示すもので、国内の景気動向の判断のため、個人消費や企業活動の状況などが分析されています。

この月例経済報告には、家計調査の結果を他の統計調査と合成して公表している世帯消費動向指数（CTIミクロ）が用いられています。

月例経済報告（2026年4月）抜粋

総論（我が国経済の基調判断）

景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。

- ・個人消費は、持ち直しの動きがみられる。ただし、消費者マインドがこのところ弱い動きとなっていることに注意が必要である。（後略）

各論

1. 消費・投資等の需要動向

（前略）需要側の統計をみると、「消費動向指数（CTI）」（2月）では、世帯消費動向指数（CTIミクロ、総世帯）の実質値は前月比 0.1%減となった。供給側の統計をみると、「商業動態統計」（2月）では、小売業販売額は前月比 2.0%減となった。（後略）

【出典】内閣府ホームページ「月例経済報告」 <https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/getsurei-index.html>

統計豆知識 ～ 消費動向指数（CTI）

消費動向指数（CTI）は、家計調査の結果を補完し、消費全般の動向を捉える分析用のデータとして総務省統計局が作成しています。単身世帯を含む当月の世帯の平均的な消費、家計最終消費支出の総額の動向を推計しています。



(2) 税制や社会保障制度の基礎資料

- 収入階級別の消費税の税負担の状況を試算するための基礎資料
- 基礎年金額、生活保護基準などの検討の基礎資料
- 勤労者の賃金を決めるための標準生計費の算定



(3) 各種行政施策の企画・立案の基礎資料

- 消費者物価指数（CPI）のウエイトの作成
- 経済政策や社会政策の立案・評価分析
（経済財政白書、労働経済白書、こども白書など各省庁の資料）

2 民間企業・学術研究者などにおける利用

家計調査の結果は、支出する品目の構成などを把握できることから、次のように様々な用途に利用されています。

- 民間企業の経営戦略（商品の生産計画や開発）の策定
- 家計収支や消費者行動などの経済分析



3 地域の活性化の取組への利用

家計調査の結果は、県庁所在市別などの消費状況の把握も可能となっています。地域によっては、観光についての広報や町おこしなどに、これらの結果を利用しています。

蟹取県ウェルカニキャンペーン

鳥取市の1世帯当たりの「かに」の支出金額、購入数量は、ともに2023～2025年平均で全国1位となっています。

そんな鳥取県は、蟹による観光誘客や認知度向上を目的として、2014年から「蟹取県ウェルカニキャンペーン」を毎年行っています。



【出典】鳥取県 HP <https://www.kanitoriken.jp/>

統計豆知識 ～ 消費者物価指数（CPI）～

消費者物価指数は、全国の世帯が日常生活で購入する商品（財・サービス）の価格の動きを総合して見るための指標です。物価の変化を客観的に表すひとつの指標として多方面で利用されています。



山形市ラーメンプロジェクト推進事業「#推しメンやまがた」

山形市の1世帯当たりの「中華そば」（外食）の支出金額は2023～2025年平均で全国1位となっています。

そんな山形市では、家計調査結果を活用し、市内のラーメン店を紹介するWebサイト「#推しメンやまがた」を始めとした各種プロモーションを展開しており、毎日食べても飽きの来ない個性あふれる多種多様なラーメンをPRしています。

地域における安定した消費を確保しながら、「日本一」というブランドを活かし、国内外からの観光誘客を図っています。



【出典】「#推しメンやまがた」 <https://www.oshimen-yamagata.jp/>

*出典のURLは変更になる可能性があります。
*ここでいう「全国」とは、都道府県庁所在地及び
政令指定都市をいいます。

4 各種メディアでの利用

毎月の家計調査の結果は、経済動向、景気動向を見る主要指標であることから、全国平均の消費支出額などが、テレビのニュースや新聞の中で取り上げられています。

また、品目別の購入数量や支出金額などは、各種バラエティ番組の中で幅広く利用され、家計調査を特集した番組なども放送されています。

○「シューイチ」（日本テレビ）

「餃子」、「ラーメン」の年間支出金額ランキング（2025年）（2026年2月6日放送）

○「マツコの知らない世界」（TBSテレビ）

「果物（りんご、みかん、ブドウ、バナナ）」の年間支出金額（1980年～2024年）
（2025年11月18日放送）

○「秘密のケンミンSHOW極」（日本テレビ）

「ソース」の年間購入数量ランキング（2022年～2024年）（2025年5月1日放送）

○ その他

「マツコ&有吉かりそめ天国」（テレビ朝日）

「月曜から夜ふかし」（日本テレビ）

「世界くらべてみたら」（TBSテレビ） など

注：地域によって放送局や放送日などが異なります。

家計支出の内容は、住んでいる地域によって違ったり、暮らしぶりの変化に伴い変わります。ここでは、家計からわかる暮らしの特徴を取り上げて見てみましょう。

1 食生活から垣間見える土地柄

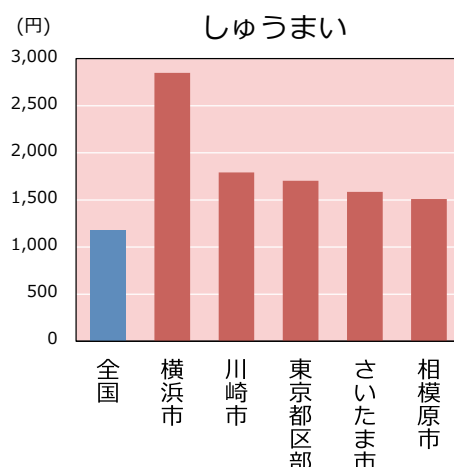
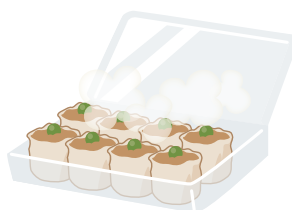
消費者の食生活には土地柄によって特徴が表れます。

都道府県庁所在市及び政令指定都市別の結果（二人以上の世帯）から、代表的な品目を取り上げました。

「しゅうまい」の支出金額全国一の横浜市

横浜市は、しゅうまいの2023～2025年平均の1世帯当たりの年間支出金額が2,849円で、全国平均（1,177円）の2.4倍となっています。

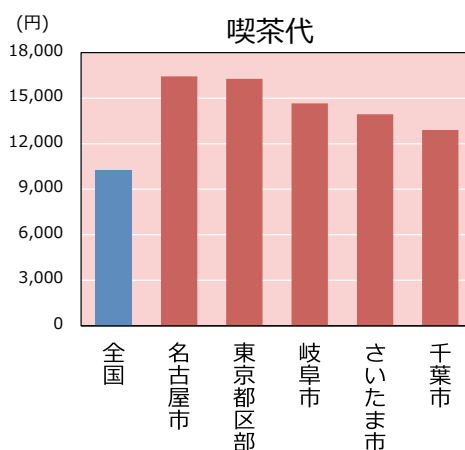
横浜市では、しゅうまいが駅弁や土産品として広く知られており、横浜を代表する名物の一つとなっています。



「喫茶代」の支出金額全国一の名古屋市

名古屋市は、喫茶代の2023～2025年平均の1世帯当たりの年間支出金額が16,431円で、全国平均（10,261円）の1.6倍となっています。

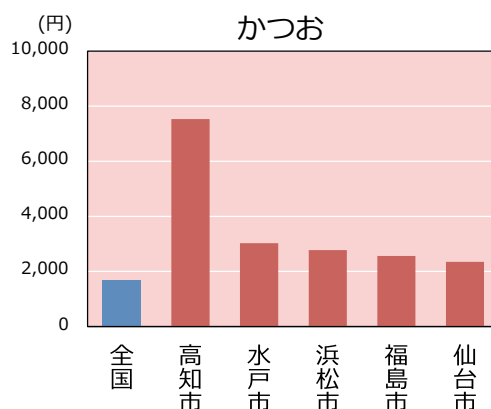
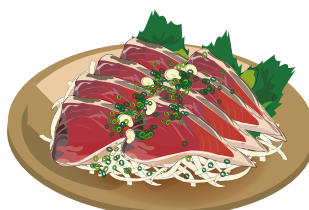
愛知県では、喫茶店文化が地域に深く根付いており、人々の交流や憩いの場として親しまれています。



「かつお」の支出金額全国一の高知市

高知市は、かつおの2023～2025年平均の1世帯当たりの年間支出金額が7,530円で、全国平均（1,682円）の4.5倍となっています。

高知県を代表する郷土料理「かつおのたたき」に使われるかつおは、地域の食文化に欠かせない存在となっています。



下の表は、2023～2025年平均の品目別「年間支出金額」又は「年間購入数量」が、全国で上位（太字は1位）である主な品目（食料）について、それぞれの地域の特徴を踏まえ、まとめたものです。

都道府県 庁所在市	品 目	都道府県 庁所在市	品 目
札幌市	さけ、他の生鮮肉(羊肉など)、ほたて貝	神戸市	食パン、紅茶、マーガリン
青森市	りんご、ビール、カップ麺	奈良市	すし(弁当)、牛乳、かぼちゃ
盛岡市	中華麺、わかめ、ゼリー	和歌山市	梅干し、みかん、しらす干し
仙台市	かまぼこ、チューハイ・カクテル、だいこん漬	鳥取市	かに、いわし、かれい、梨
秋田市	さんま、ほうれんそう、ウイスキー	松江市	しじみ、あじ、さば
山形市	中華そば(外食)、さといも、他の果物(さくらんぼなど)	岡山市	桃、ぶどう、合いびき肉
福島市	桃、清酒、米、納豆	広島市	かき(貝)、ソース、ビール
水戸市	メロン、せんべい、ヨーグルト	山口市	スポーツドリンク、あじ、ふりかけ
宇都宮市	いちご、洋食(外食)、ぎょうざ	徳島市	さつまいも、ちくわ、生しいたけ
前橋市	きゅうり、弁当、乳酸菌飲料	高松市	生うどん・そば、日本そば・うどん(外食)
さいたま市	ブロッコリー、ケーキ、ドレッシング	松山市	他の柑きつ類(伊予かんなど)、たい
千葉市	レタス、ワイン、キウイフルーツ	高知市	かつお、はくさい漬、発泡酒
東京都区部	チーズ、飲酒代、トマト	福岡市	風味調味料、たらこ、鶏肉
横浜市	しゅうまい、ピーマン、紅茶	佐賀市	干しのり、たい、ごぼう
新潟市	塩さけ、さやまめ、カレールウ	長崎市	カステラ、あじ、かまぼこ
富山市	ぶり、いか、オレンジ	熊本市	すいか、他の生鮮肉(馬肉など)
金沢市	れんこん、すし(外食)、もち	大分市	鶏肉、干しいたけ、焼肉
福井市	油揚げ・がんもどき、コロッケ、ようかん	宮崎市	焼酎、ぎょうざ、砂糖
甲府市	ぶどう、あさり、まぐろ	鹿児島市	揚げかまぼこ、酢、さば
長野市	しめじ、みそ、りんご	那覇市	にんじん、ハンバーガー(外食)、かつお節・削り節
岐阜市	柿、和食(外食)、ケチャップ	政令指定 都市	品 目
静岡市	まぐろ、しらす干し、緑茶	川崎市	ジャム、キウイフルーツ、おにぎり・その他
名古屋市	喫茶代、中華食(外食)、オレンジ	相模原市	ハム、ココア・ココア飲料、チーズ
津市	小麦粉、ソーセージ	浜松市	うなぎのかば焼き、ぎょうざ、緑茶
大津市	コーヒー、キャンデー、たまねぎ	堺市	はくさい、えび、たこ
京都市	他の野菜の漬物(千枚漬など)、なす、牛肉	北九州市	たらこ、さしみ盛合わせ、たい
大阪市	えび、はくさい、たこ		

2 最近の特徴的な支出

最近の家計消費の動き

2025年の消費支出は実質0.9%の増加となり、3年ぶりの実質増加

2025年の二人以上の世帯（平均世帯人員2.87人、世帯主の平均年齢60.7歳）の消費支出は、1世帯当たり1か月平均314,001円で前年に比べ名目4.6%の増加となりました。また、物価変動（3.7%）の影響を除いた実質でも0.9%の増加となりました。「食料」などが減少となった一方、前年の反動で「自動車等関係費」が増加、大阪・関西万博の影響などにより「交通」や「教養娯楽サービス」が増加したことで、3年ぶりの実質増加となりました。

2025年における月別の動き

2025年の消費支出を月別にみると、1月は、前月の気温が低かったことで「電気代」が増加したことなどにより、実質0.8%の増加となりました。

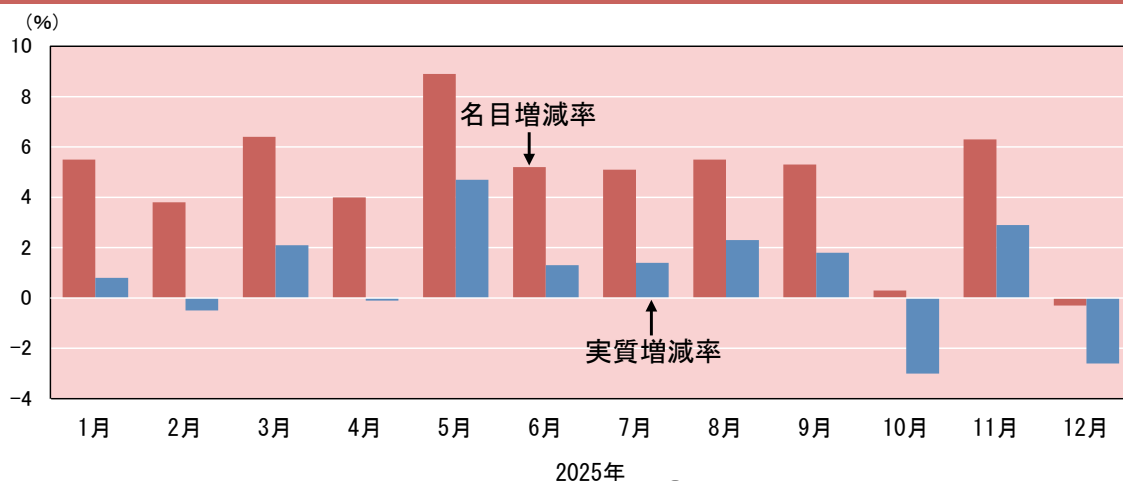
2月は、うるう年であった前年より1日少なかった影響もあり、実質0.5%の減少となりました。

4月は、生鮮野菜の価格上昇が落ち着いてきたことから「野菜・海藻」などが増加した一方、気温が低く夏物衣料が低調だったことで「洋服」が減少したことなどにより、実質0.1%の減少となりました。

8月及び9月は、「自動車等関係費」が増加したほか、大阪・関西万博の影響などにより文化施設入場料などの「教養娯楽サービス」が増加し、それぞれ実質2.3%、実質1.8%の増加となりました。

11月は、前年に比べて休日が多かったことにより、「家庭用耐久財」や外食を含む「食料」などの幅広い分野で増加し、実質2.9%の増加となりました。

消費支出の対前年同月増減率（二人以上の世帯）



統計豆知識 ～ 名目と実質～

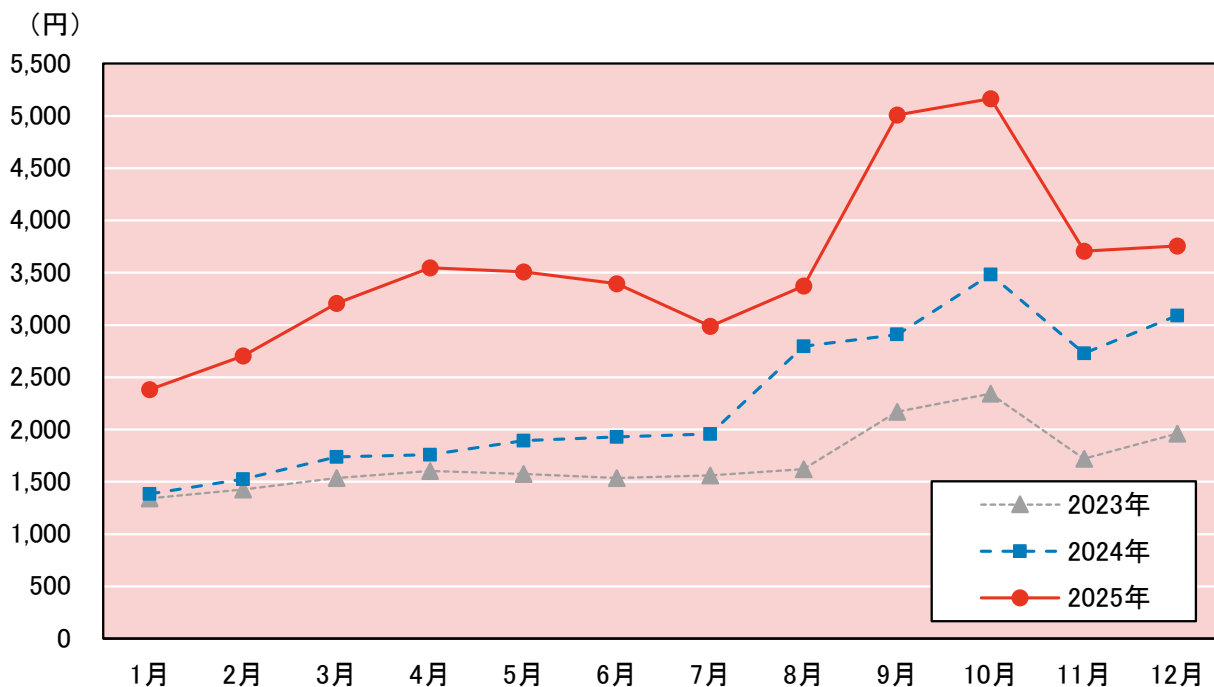
「名目」とは額面どおりの金額で、普段私たちがスーパーなどで目にしている金額そのものです。一方、「実質」とは、物価の変動の影響を取り除いたものです。

支出金額の名目増減率は、支払った金額の動きを示し、実質増減率は、支払った金額（名目）から消費者物価指数（4ページ参照）の変化分を取り除いた実質的な金額の動きを示します。実質増減率は、数量や品質の変化分に当たります。

2025年における主な品目別の動き

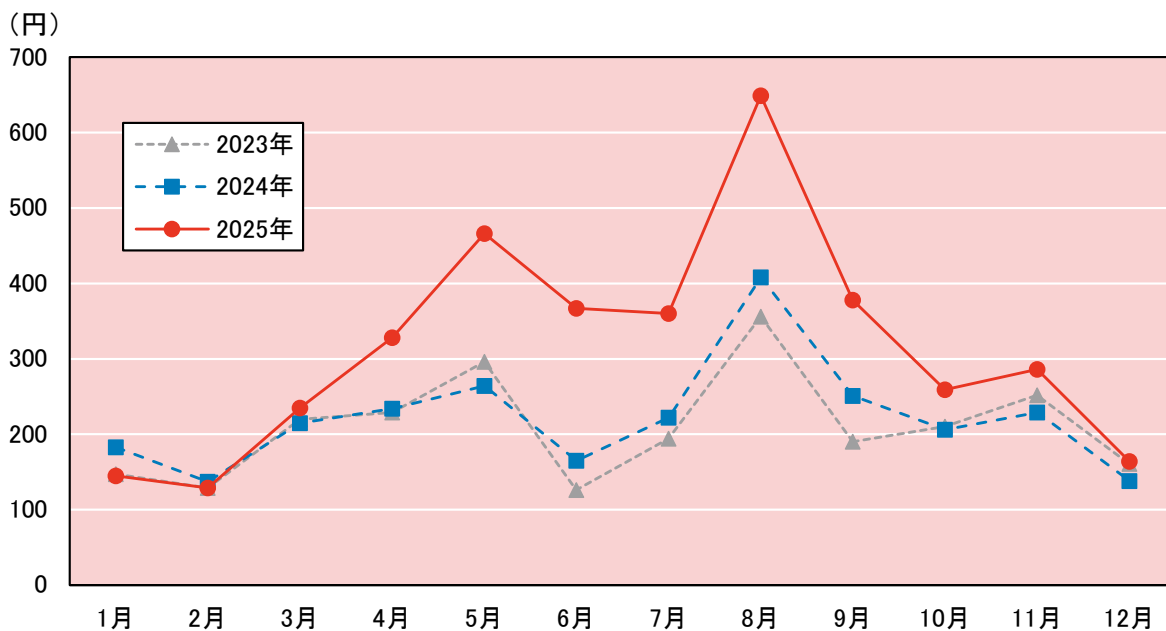
「米」の1か月当たりの支出金額を月別にみると、支出額の増加傾向は続いており、2025年は全ての月で前年同月の支出額を上回る高い水準で推移しています。特に9月から10月にかけて大幅な上昇がみられるなど、米の支出額の上昇傾向が顕著に表れています。

「米」の月別支出金額の推移（二人以上の世帯）



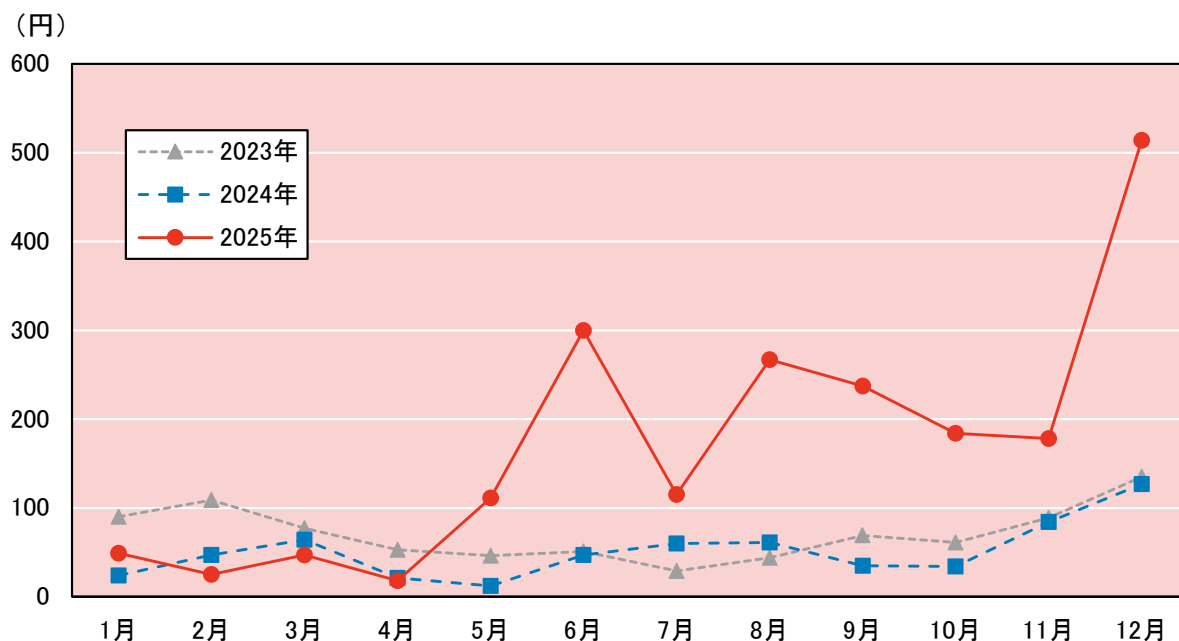
「文化施設入場料」についてみると、2025年4月から10月までの合計の支出金額は前年の同時期と比べて1.6倍となっています。特に8月に大幅な上昇がみられるなど、同時期に開催された「2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）」の影響によるものと考えられます。

「文化施設入場料」の月別支出金額の推移（二人以上の世帯）



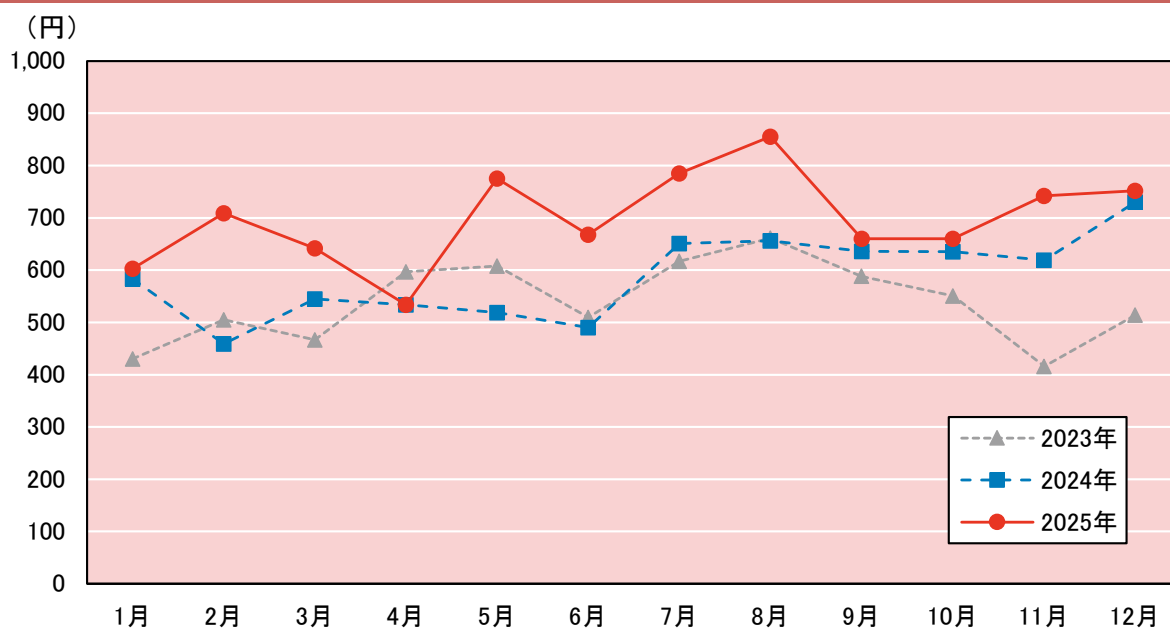
「ゲーム機」についてみると、2025年6月の支出金額は前年同月と比べて6.4倍、12月は4.0倍に増加しています。また、5月以降の月では継続して前年同月を上回っています。これは、2025年6月に発売された「Nintendo Switch 2」の人気の継続したことに加え、年末商戦やクリスマスプレゼントとしての需要増などによるものと考えられます。

「ゲーム機」の月別支出金額の推移（二人以上の世帯）



「映画・演劇等入場料」についてみると、2025年は映画「鬼滅の刃」や「国宝」など話題作のヒットが相次いだこともあり、概ね前年を上回る水準で推移しました。

「映画・演劇等入場料」の月別支出金額の推移（二人以上の世帯）



3 あの日には欠かせない この日には欲しい この品目

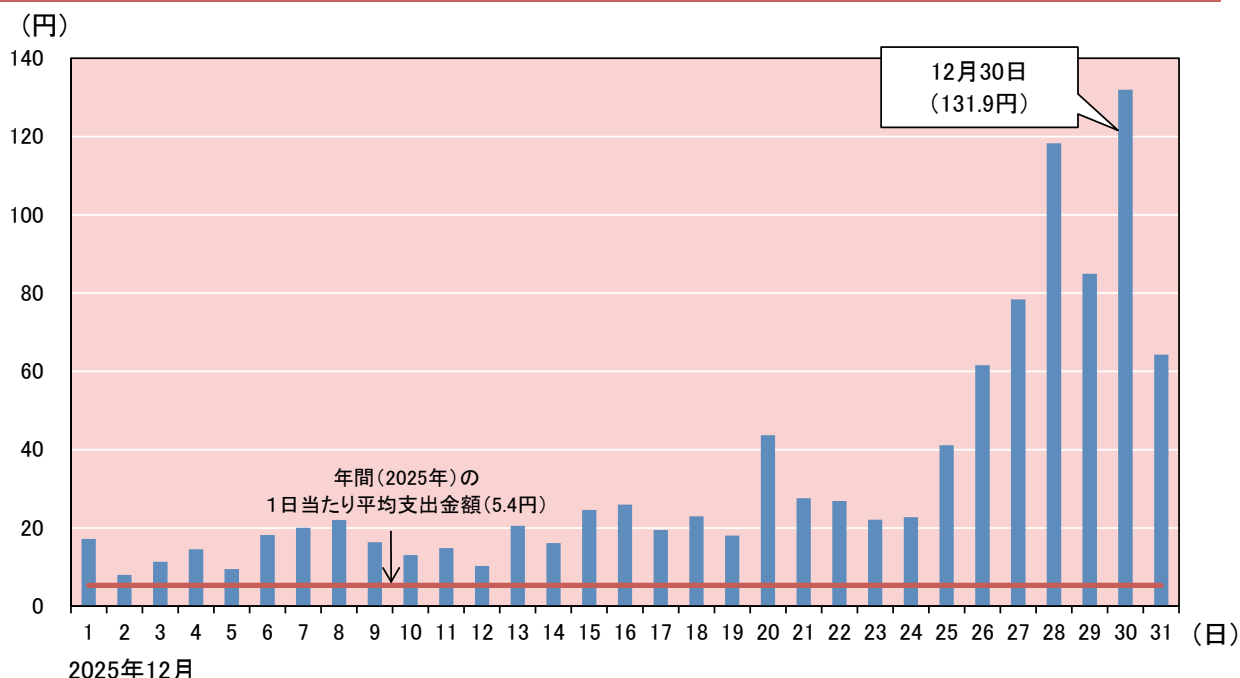
特定の日に購入が集中する「もち」と「チョコレート」

1年の中でも特定の日に購入が特に多くなる商品があります。

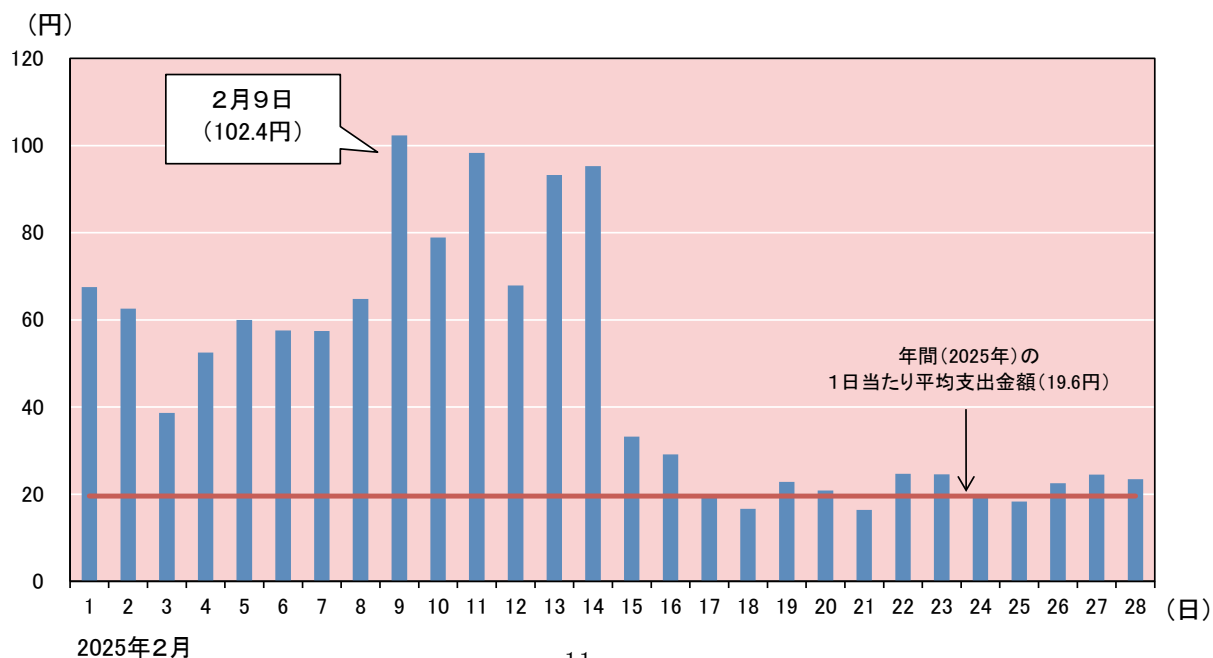
2025年12月の「もち」の支出金額を日別にみると、特にクリスマスが終わった頃から支出が増え、最も多くなるのは12月30日（131.9円）となっています。年間を通じた1日当たりの平均支出金額の約25倍になっています。大晦日の前日で多くなるのは、お供えとして飾る鏡もちが含まれることもあり、いわゆる「一夜飾り」を嫌う風習も一因かもしれません。

また、「チョコレート」の支出金額は、バレンタインデー前に支出が増加しており、少し余裕をもってチョコレートを購入する世帯がいる一方、バレンタインデー直前に購入する世帯も多いようです。

「もち」の1世帯当たり1日当たりの支出金額（二人以上の世帯）



「チョコレート」の1世帯当たり1日当たりの支出金額（二人以上の世帯）



4 変わる季節性

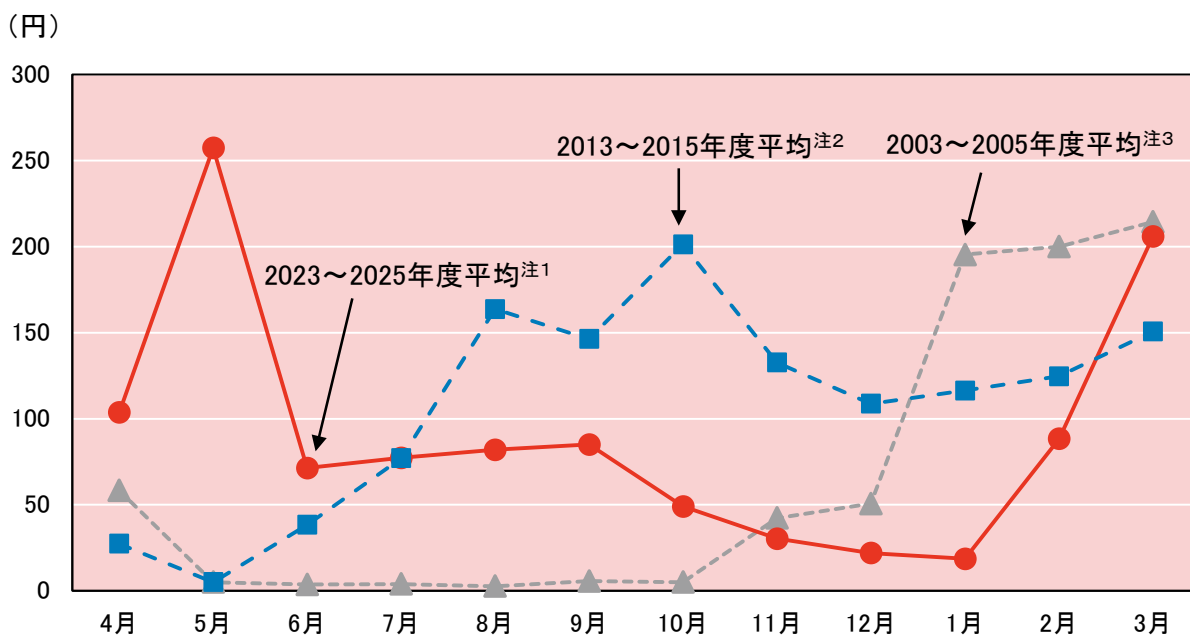
購入時期が早まる通学用かばん

商品の中には、消費者が購入する時期が、昔とは異なってきているものがあります。

通学用かばんの支出金額は、20年前は年末から入学前にかけて多くなっていました。10年前は夏頃から多くなる傾向がみられました。最近では春から初夏にかけて多くなってきているなど、購入時期が大きく変化しています。

最近では、ランドセルメーカーや小売店が、祖父母が孫のために購入する需要を見込んで、4、5月のゴールデンウィークなどの時期を中心に、親が子を連れて帰省する機会を狙い、春頃から翌年用のランドセルの新商品の販売を開始するようになりました。また、ランドセルの色や素材は多種類から選べるようになり、人気ブランドやデザインによっては、早々に売り切れることも珍しくないため、購入時期が早まる傾向にあるようです。

「通学用かばん」の月別支出金額（二人以上の世帯）



注1 2023年4月から2026年3月までの月ごとの平均

注2 2013年4月から2016年3月までの月ごとの平均

注3 2003年4月から2006年3月までの月ごとの平均



家計支出の内容は世帯主の年齢によって異なります。ここでは、世帯主の年齢階級別に暮らしの特徴を見てみましょう。

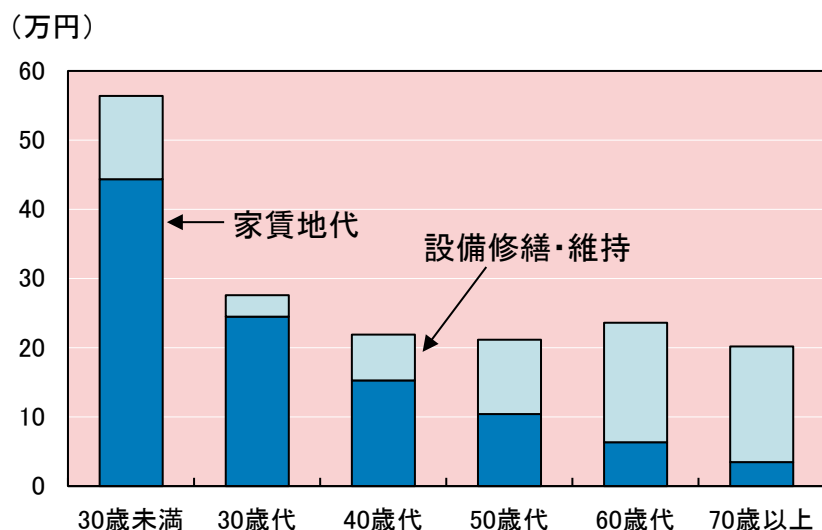
二人以上の世帯

1 30歳未満で多い住居費

世帯主の年齢が低い世帯ほど、借家に住む世帯の割合が高いため、家賃地代を含む、住居費の支出が多い傾向にあります。特に、住居費に占める家賃地代の支出割合は若い世代で高くなっています。

また、世帯主の年齢が高い世帯ほど持家に住む割合が高いため、設備修繕・維持の支出が多くなる傾向にあります。

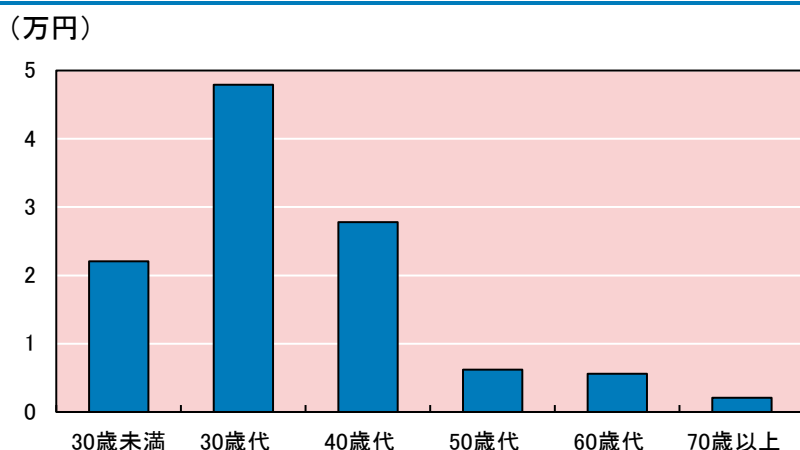
世帯主の年齢階級別 1 世帯当たり年間の住居費（二人以上の世帯）（2025 年）



2 30歳代で多い子供用衣料など

世帯主が30歳代の世帯では、小学生以下の子供のいる割合が高いため、子供用衣料などへの支出が他の年代に比べ多くなっています。

世帯主の年齢階級別 1 世帯当たり年間の子供用衣料などの支出（二人以上の世帯）（2025 年）



子供用衣料など：子供用洋服、子供用シャツ・セーター類、
子供用下着類、子供用靴下、子供用靴・サンダル



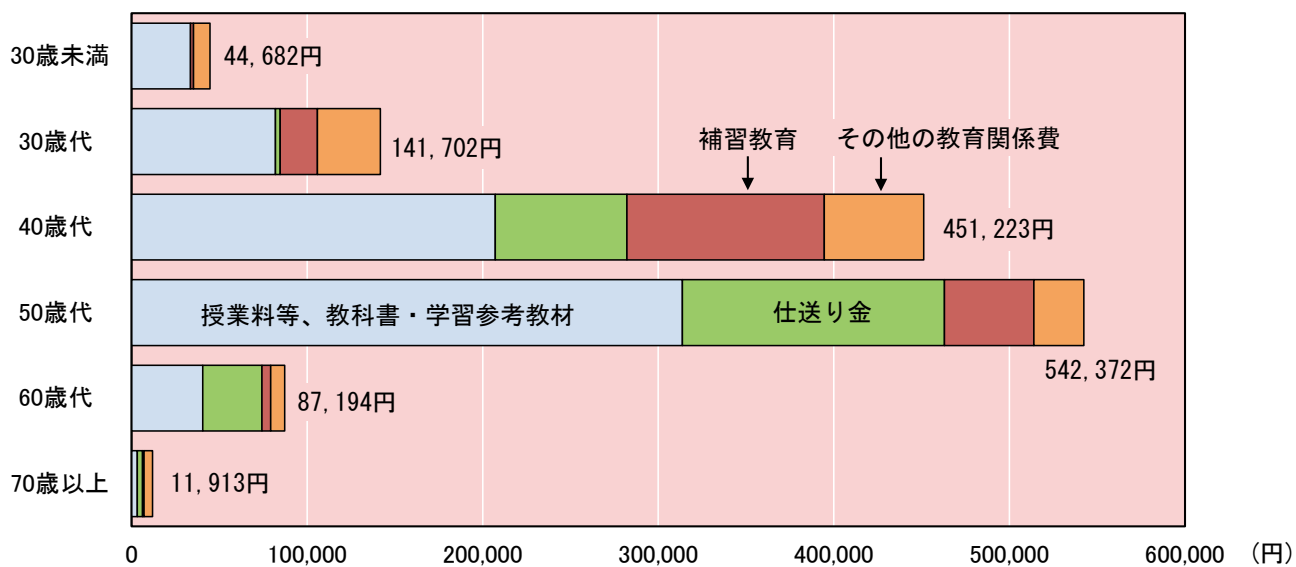
3 40 歳代及び 50 歳代で多い教育関係費

世帯主が40歳代及び50歳代の世帯は、子供が成長し、授業料、学習参考書費用、仕送り金、塾の費用などの「教育関係費」の支出が他の年代に比べ多くなっています。

世帯主が40歳代の世帯では、子供が中学校や高校に在学している世帯の割合が高いため、学習塾や家庭教師への月謝などが含まれる「補習教育」のほか、学校給食や文房具などを含む「その他の教育関係費」の支出が他の年代に比べ多くなっています。

世帯主が50歳代の世帯では、子供が親元を離れ、大学に進学する世帯の割合が高いため、子供への「仕送り金」の支出は、40歳代の世帯の2.0倍になっています。

世帯主の年齢階級別 1 世帯当たり年間の教育関係費（二人以上の世帯）（2025 年）



仕送り金：国内遊学仕送り金

その他の教育関係費：学校給食、男性用学校制服、女性用学校制服、鉄道通学定期代、バス通学定期代、書斎・学習用机・椅子、文房具、通学用かばん

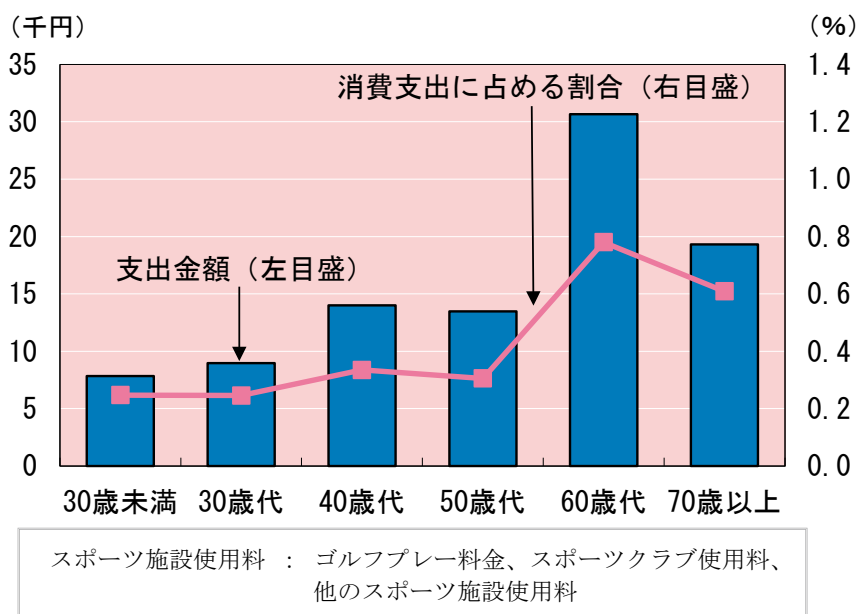


4 60歳代で多いスポーツ施設使用料

フィットネスクラブなどの「スポーツ施設使用料」の支出金額をみると、60歳代の世帯が最も多く、最も少ない30歳未満の世帯の3.9倍になっています。

なお、消費支出に占める「スポーツ施設利用料」の割合も60歳代の世帯が最も高くなっています。

世帯主の年齢階級別 1世帯当たり年間のスポーツ施設使用料（二人以上の世帯）（2025年）

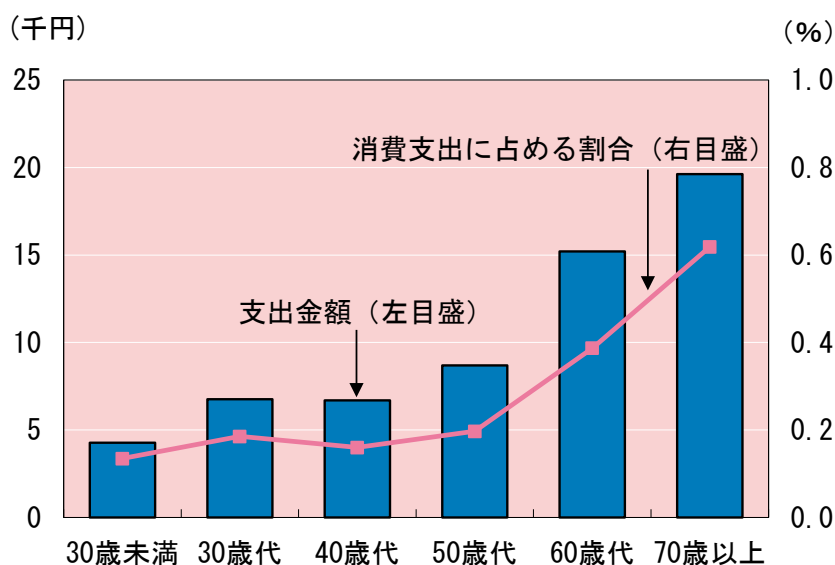


5 70歳以上で多いサプリメントなどの支出

サプリメントなどの「健康保持用摂取品」の支出金額をみると、70歳以上の世帯が最も多く、最も少ない30歳未満の世帯の4.6倍になっています。

また、消費支出に占める「健康保持用摂取品」の割合も70歳以上の世帯が最も高くなっています。

世帯主の年齢階級別 1世帯当たり年間の健康保持用摂取品の支出金額（二人以上の世帯）（2025年）



※ 健康保持用摂取品には、青汁、ローヤルゼリー、サプリメントなどが含まれます。

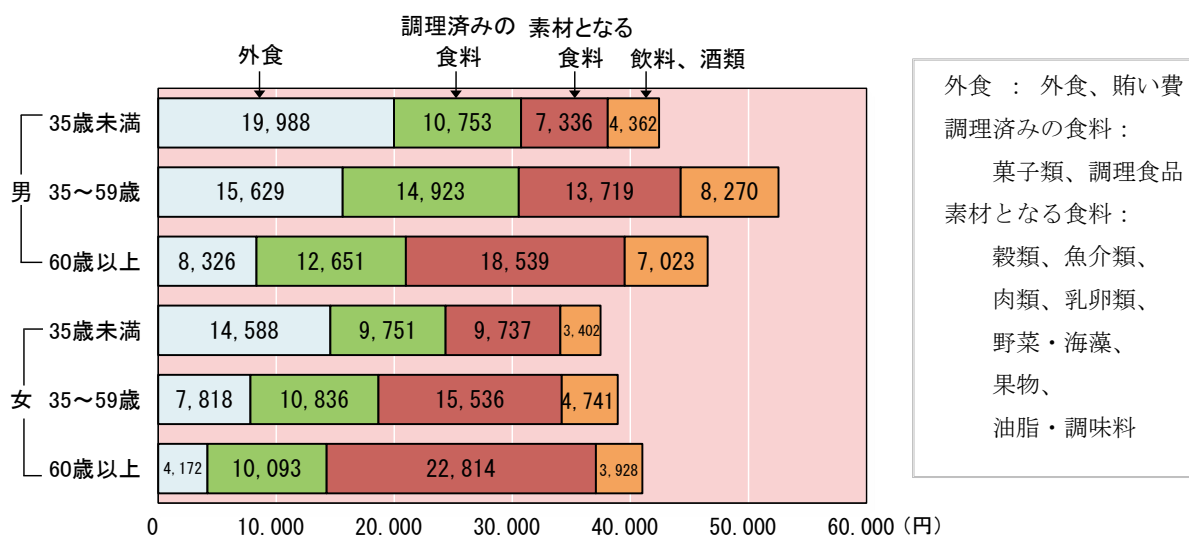


単身世帯

35歳未満の男性の外食の支出は1か月当たり2万円

単身世帯について、男女の年齢階級別に食費の内訳をみると、男女ともに、35歳未満で「外食」の支出が最も多くなっており、60歳以上で野菜や魚介類などの「素材となる食料」の支出が最も多くなっています。

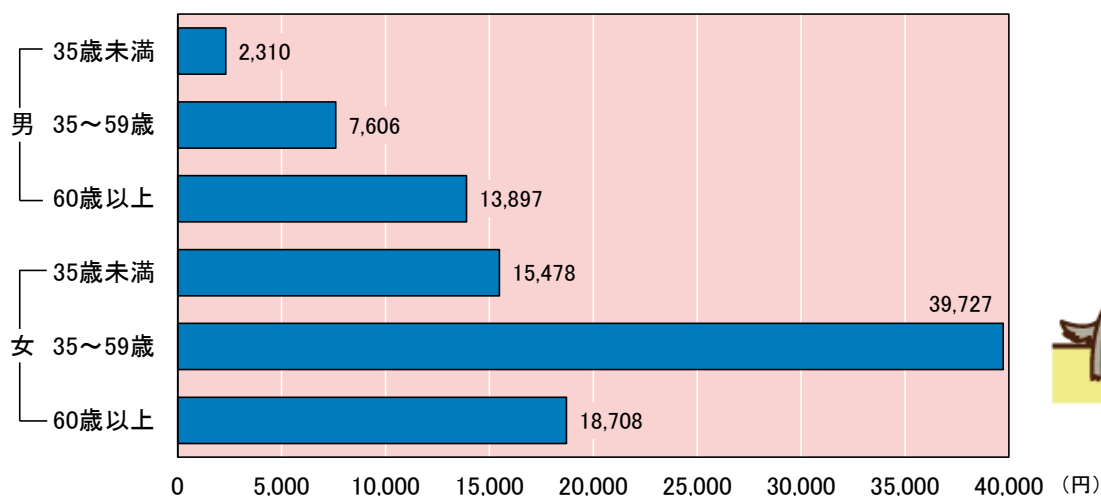
男女、年齢階級別1か月の食費（単身世帯）（2023～2025年平均）



ペット関連費の支出が多い35～59歳の女性

単身世帯について、男女の年齢階級別にペット関連費をみると、35～59歳の女性の支出が最も多くなっています。

男女、年齢階級別年間のペット関連費（単身世帯）（2023～2025年平均）



ペット関連費：ペットフード、ペット・他のペット用品、動物病院代、他のペット関連サービス（ペットの美容院代など）

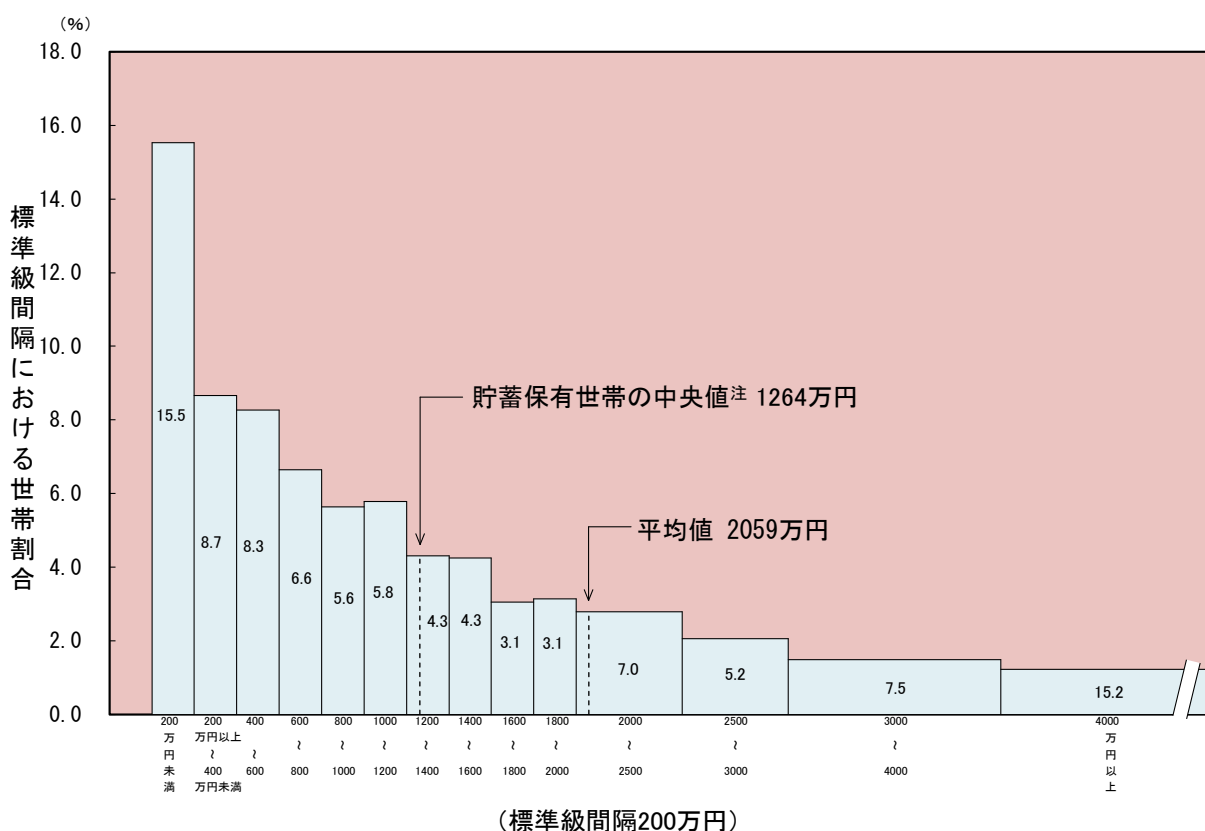
資産の状況は、消費の動向に影響を与えます。ここでは二人以上の世帯の貯蓄や負債の状況について見てみましょう。

1 貯蓄額別の世帯分布

貯蓄現在高の平均値を下回る世帯は全体の約3分の2

二人以上の世帯における2025年平均の1世帯当たりの貯蓄現在高は2059万円で、比較可能な2002年以降で最多となっています。ただし、その平均を下回る世帯が、全体の約3分の2を占めます。これは、貯蓄の多い世帯が、平均値を押し上げているためです。また、金額の少ない世帯から高い世帯へと順に並べたときに、ちょうど中央に当たる世帯の貯蓄現在高は1264万円となっています。

貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）（2025年）



注 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄現在高が「0」の世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいいます。
 なお、貯蓄現在高が「0」の世帯を含めた中央値は、2025年平均では1167万円となっており、「0」の世帯を除いた場合と比べて97万円低くなっています。

統計豆知識 ～ 平均値と中央値～

たくさんのデータを集めた統計をわかりやすく表すためによく使われるのが平均値です。富士山のように左右に同じように広がって分布しているときには、平均値が実感に合っています。ところが、上の貯蓄のように、左側から右肩下りのグラフになるときは、平均は実感と異なることがあります。このような場合には、額の低い方から数えた真ん中の世帯の額（中央値）を確認したり、世帯分布のグラフを確認したりすることが必要です。

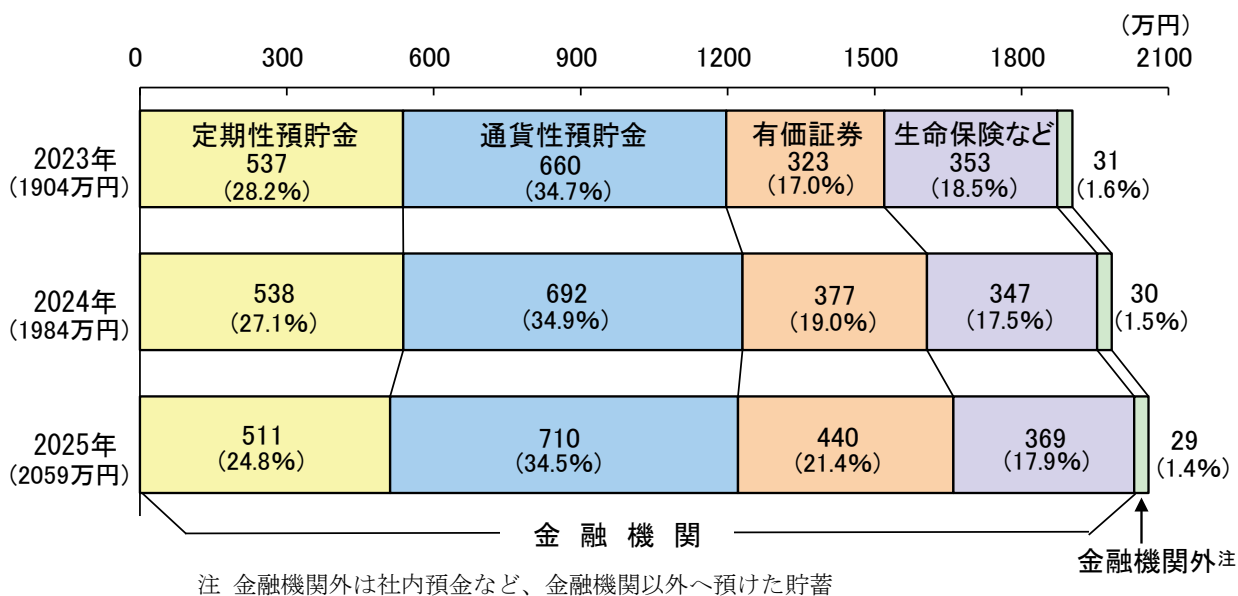


2 貯蓄の種類別の状況

通貨性預貯金は17年連続の増加

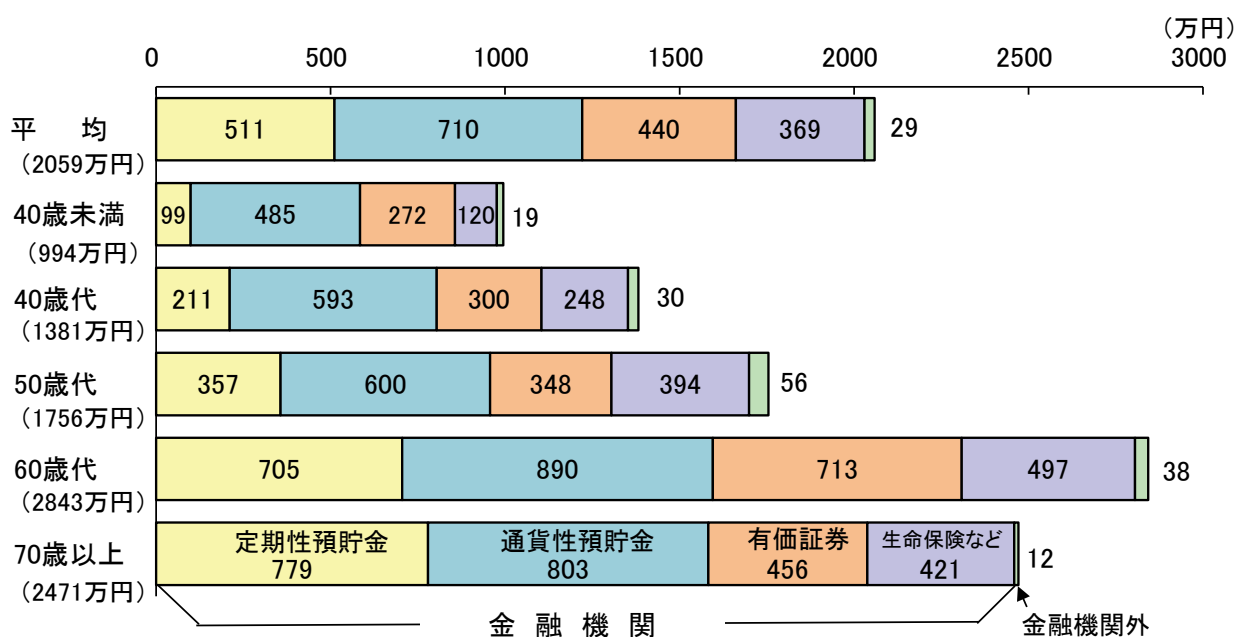
2025年の二人以上の世帯における貯蓄現在高の内訳をみると、銀行の普通預金などの通貨性預貯金が、前年に比べ18万円増加し、17年連続の増加となっています。また、有価証券は、前年に比べ63万円増加し、3年連続の増加となっています。

貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比（二人以上の世帯）



貯蓄現在高の内訳を世帯主の年齢階級別にみると、全ての年齢階級で通貨性預貯金が最も多くなっています。また、有価証券をみると、60歳代が最も多くなっています。

世帯主の年齢階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高（二人以上の世帯）（2025年）



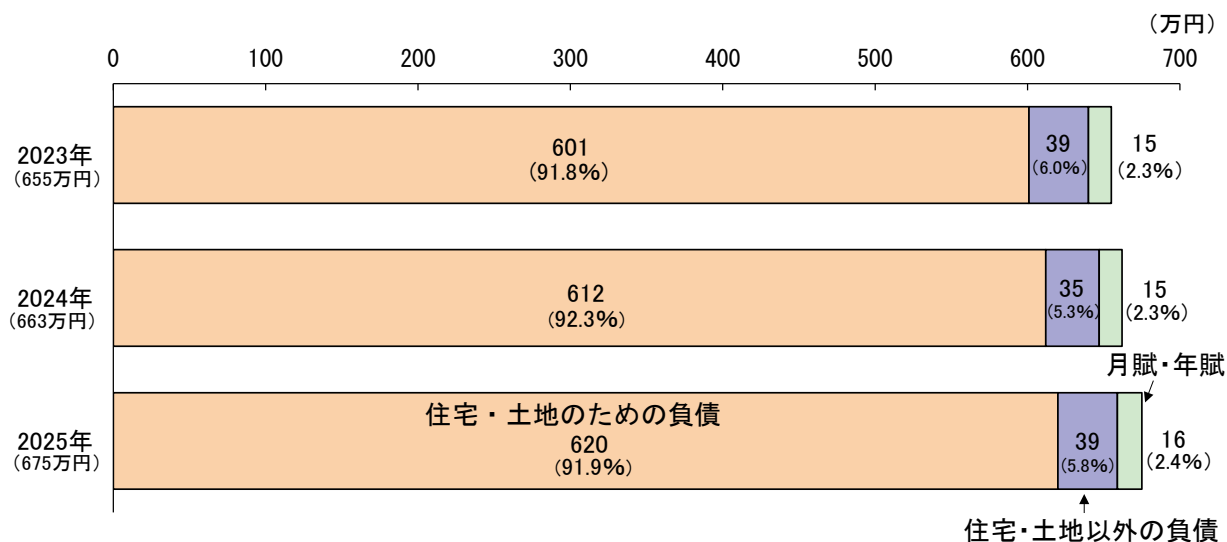
3 負債の種類別の状況

住宅・土地のための負債が負債現在高の約9割を占める

2025年の二人以上の世帯における負債現在高は、前年から12万円増加し、675万円となっています。

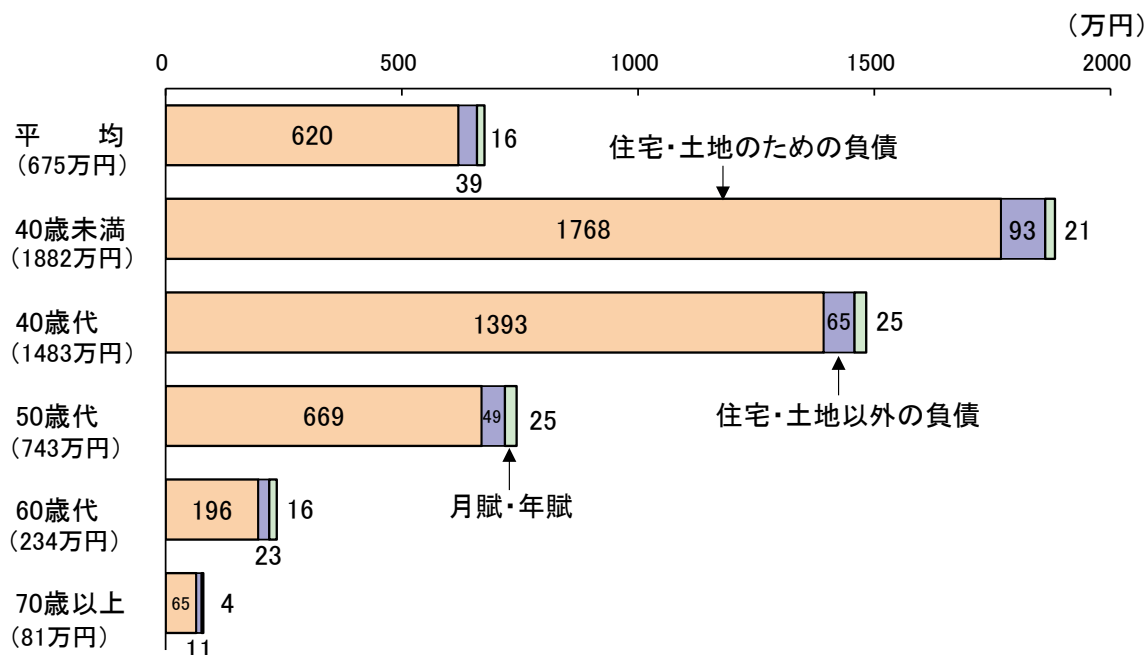
内訳をみると、住宅・土地のための負債が620万円と最も多く、全体の91.9%を占めています。

負債の種類別負債現在高及び構成比（二人以上の世帯）



負債現在高の内訳を世帯主の年齢階級別にみると、住宅・土地のための負債は、40歳未満が最も多く、1768万円となっています。50歳代以降では、住宅・土地のための負債が大きく減少しており、高齢になるにつれ住宅ローンの返済が進んでいることがうかがわれます。

世帯主の年齢階級、負債の種類別負債現在高（二人以上の世帯）（2025年）



〈家計調査（家計収支編）結果の公表予定〉 — 2026年1月分～2027年2月分 —

月平均結果		四半期及び年平均結果	
二人以上の世帯		総世帯・二人以上の世帯・単身世帯	
調査月	公表月日	調査期（年）	公表月日
2026年1月分	2026年3月10日（火）	2026年1～3月期平均 2025年度平均	2026年5月12日（火）
2月分	4月7日（火）		
3月分	5月12日（火）		
4月分	6月5日（金）		
5月分	7月7日（火）		
6月分	8月7日（金）	4～6月期平均	8月7日（金）
7月分	9月4日（金）		
8月分	10月9日（金）		
9月分	11月10日（火）	7～9月期平均	11月10日（火）
10月分	12月8日（火）		
11月分	2027年1月8日（金）		
12月分	2月5日（金）	10～12月期平均 2026年平均	2027年2月5日（金）
2027年1月分	3月9日（火）		
2月分	4月6日（火）		

貯蓄・負債編の四半期平均結果は、四半期の最終月から約4か月後に公表する予定

〈内容に関する問合せ先〉



総務省統計局

統計調査部 消費統計課 企画指導係
審査発表係

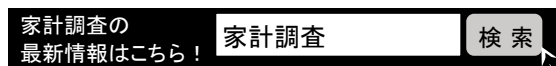
TEL:03 (5273) 1172 (調査実施に関する問合せ)

TEL:03 (5273) 1174 (調査結果に関する問合せ)

〒162-8668 東京都新宿区若松町19-1

〈調査結果に関する情報〉

家計調査結果については、統計局のホームページを通じて提供しています。



URL <https://www.stat.go.jp/data/kakei/index.html>



家計調査年報は、総務省統計図書館、国立国会図書館及び各支部、都道府県統計主管課並びに都道府県立図書館で閲覧することができます。

〈お知らせ〉

○政府統計の総合窓口 (e-Stat)



家計調査を含め、全ての政府統計を収録した統計ポータルサイトです。

<https://www.e-stat.go.jp/>



○統計学習サイト

児童・生徒向け



<https://www.stat.go.jp/naruhodo/index.html>



社会人向け



<https://www.stat.go.jp/dss/index.html>



○キッズすたっと～探そう統計データ～



小・中学生が、教科書にある言葉などから統計データを探することができるサイトです。

<https://dashboard.e-stat.go.jp/kids/>



○統計ダッシュボード



主な統計データをグラフなどに加工して一覧表示し、視覚的に分かりやすく提供するサイトです。

<https://dashboard.e-stat.go.jp/>



* 本冊子は、次のURLからダウンロードできます。

⇒ <https://www.stat.go.jp/data/kakei/family/index.html>

※本冊子に掲載されたデータを引用・転載する場合には、出典（「家計調査結果」（総務省統計局））の表記をお願いします。

2026年8月発行

家計調査へのご理解・ご回答をお願いします

正確な結果を得るためには、調査の対象になられた世帯の皆さまの回答1つ1つが重要となります。

調査員が伺った際は、ご回答をよろしくお願いいたします。